



長野南部教区・北部教区智山青年会より、大山御貫首に義援金が託された

長野南部教区・北部教区智山青年会より 被災地への義援金到着

東日本大震災復興祈願

去る二月二十日、長野南部教区・北部教区智山青年会より、当山の大山御貫首に、東日本大震災復興義援金が届けられました。この義援金は「東日本大震災、全国災害地復興祈願柴燈大護摩供」を青年会主催で執行するに当たり、協賛金を長野県本派各寺院の皆様にご協力をお願いしたところ、心温まる浄財が集まり、その浄財を復興義援金として、被災地へと送る役割を高尾山に託されました。この復興祈願法要は、昨年の十一月十六日、檀信徒約六百名が参列して、長野市長谷寺道場にて、総勢約四十名の青年僧侶により厳修されました。青年会は、これまで多種のボランティア活動などに取り組み、今後も東日本大震災のみならず、全国各地で被害を受けた災害地の、一日も早い復興を祈り、総力を挙げて活動して行く方針であるとのことでした。

山の祈り自然の響き 小笹根本道場と 理源大師聖寶

法務課 佐藤秀仁

21

大峯山寺から尾根を進むこと四キロほどの場所に、小笹根本道場があります。

この場所は、今を遡ること一千二百年ほど昔、弘法大師の実弟である真雅に從い出家し、後に醍醐寺を創建した大峯修行中興の祖、理源大師聖寶が



大峯山中で修行中に、蔵王権現に姿を変えた役行者神変大菩薩に導かれ、龍樹菩薩より真言宗独自の修験道の教えを授かった、真言宗(当山派)山伏の聖地です。その教えが連綿と現在まで伝承され、山伏修行の大いなる基盤とされているのです。この地には、鎌倉時代後期より畿内五ヶ国(大和、山城、河内、和泉、摂津)の山岳寺院の奥の院として「小笹三十六坊」と呼ばれる坊が点在し、

現在では角棒の痕跡である石垣が僅かに残り、鑄像の理源大師聖寶と神変大菩薩を奉安する朱塗りの小堂を仰ぐ柴燈護摩道場が荘厳されています。霧に包まれる未明の小笹根本道場を訪れる時、

手を合わせ、耳を澄ませば霊域に流るる石清水のせせらぎに身心が清められ、先人たちの祈りが時空を越えて心に沁み入ります。

さて以前、新客を交え験友数名とこの地に歩んだ時のことです。参拝を済ませ、車座となり、宿で握ってもらった大きな握り飯を頬張り満腹の腹を撫でていると、験友がリュックサックからなにやらゴソゴソと桐の箱を取り出したのです。なんとそれは以前、結婚の記念にと高尾山葉王院の御貫首さま(ご住職)からいただいたというお手製の貴重な茶碗でした。続けて茶道具を取り出すと膝をつき、理源大師の尊像に献じる茶を点てているではありませんか。

仲間の風流な姿を眺めながら、幽谷深山の静けさの中で聞く茶筌の音にしばし峰に遊ぶ喜びに浸ったのでした。
(生きる力SHINGON 第八十号より転載)

奉納御礼 特大の自然薯届く

このたび八王子市に在住の松本恭俊さん(七十八歳)より当山の大山御貫首宛に、特大の自然薯が届けられました。

幼いころから自然薯掘りをしていて松本さんのお話によりまずと、この八王子産の自然薯は無傷で採れた状態では、生涯最高の品であると仰っております。

この自然薯を一度は縁のある株式会社アーバンさんで使って頂くかと思っていたところ、同社の佐藤久牧会長より、「せっかくだから高尾山の御前様に滋養強壯にお届けしてはいかがでしょうか」という有難い言葉を頂き、今回御貫首へ御奉納される運びと相成りました。

関係の皆さまの今後の御健康をお祈りすると共に、茲に謹んで重ねて御礼申し上げます。



自然薯を持ち、喜ぶ大山御貫首

高尾山の昆虫

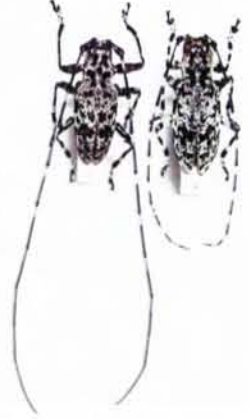
ヒゲナガゴマフカミキリ

カミキリムシは種類数が多く生姿も様々で、擬態をする例としてもよく取り上げられることがあります。

スズメバチやアシナガバチ、アリにそっくりなトラカミキリの仲間がいれば、ベニボタル、ハムシによく似たハナカミキリの仲間もいて、有毒で敬遠されがちな他の昆虫に成りすまし外敵から身を守ります。

一方、体の色や形を背景に同化させて、採集者や捕食者の目を欺く隠形タイプの種も少なくありません。

ヒゲナガゴマフカミキリは長い触角と、白地に黒い紋が散りばめられる上品な佇まいを持つ美麗種です。一際目立ちます。ところがこの目に付きやすいと思われる配色が本肌等に溶け込み見事な保護色となり、見つけにくい状況となります。



(撮影・文 松島 孝)